

循環型社会の構築

基本的な考え方

資源枯渇や水リスクを軽減するために、製造部門中心である不良・歩留まり対策だけでなく、源流部門の材料技術・生産技術を巻き込んでの排出抑制・リサイクルに取り組み、循環型社会の実現に貢献しています。また、水に関し

ては、グローバルで事業活動を展開する国・地域ごとにリスクを洗い出し、水使用量の低減や水のリサイクルはもちろん、よりきれいな排水として地域に還すことなどのリスク低減に取り組んでいます。

資源循環に関する「リスク」と「機会」

資源循環に関する「リスク」と「機会」を重要な経営課題と捉え、重点取り組み事項の1つとして全社で取り組んでいます。

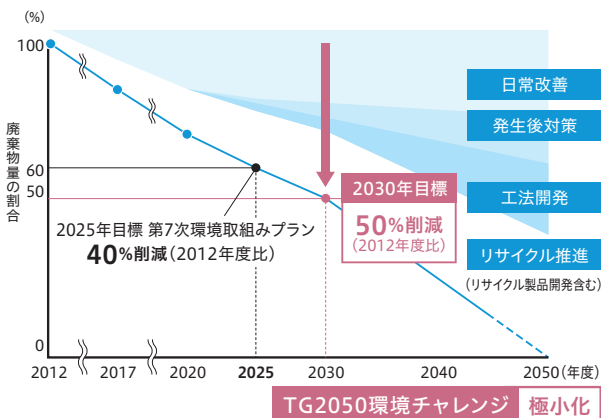
影響する項目	リスク	機会	対応
資源の枯渇 (不足)	・ 原材料の調達難や価格高騰による収益悪化と生産支障	・ リサイクル技術、材料使用量の削減による収益向上 ・ 上記技術開発による企業価値の向上	・ 軽量化に向けた製品開発の推進 ・ 原材料のリサイクル技術開発 ・ 植物由来のバイオ材やリサイクル材の活用拡大
水リスク (量・質)	・ 生産に必要な水の確保難による生産支障 ・ 水質悪化による製品品質の悪化 ・ 水害による生産支障	・ 水の再利用、使用量の削減による収益向上 ・ 上記技術開発による企業価値の向上	・ 水の再利用技術の開発 ・ 雨水の利用の活用拡大 ・ 生産体制の見直し、電気設備の設置場所見直し

廃棄物の低減

2030年マイルストーンの設定

排出抑制・発生源対策、ゴム・樹脂屑のリサイクル、徹底的な分別による廃棄物の低減など資源の有効利用に取り組んでいます。

廃棄物量の極小化に向けたシナリオ(削減イメージ図)[単体]



製品のリサイクル技術の開発

自動車のライフサイクル全体を考え、リサイクルしやすい製品や材料の開発・設計、廃材のリサイクル技術の開発を推進しています。

ELV※部品リサイクルに向けた技術開発

重点項目	取り組み方策
新規リサイクル	・ 複合素材の分離技術 ・ 新規再生処理技術(高品質マテリアルリサイクル)
リサイクル材の車両搭載	・ ELV 部品の再生処理技術 ・ リサイクル材用途開発
リサイクルしやすい製品設計	・ 解体しやすい製品設計 ・ リサイクルしやすい素材、構成への変更

※ 使用済車両(End of Life Vehicle)

生産段階での廃棄物の低減 **モノづくり** **回収・再生**

2018年に「廃棄物低減プロジェクト」を発足させ、源流対策やリサイクル活動を推進しています。各事業所では、現地・現物による低減アイテムを発掘するための「もったいない点検」を実施し、低減活動を促進しています。また国内外グループ会社に低減事例を共有し、グループ全体で廃棄物低減を推進しています。

水リスクの低減 **モノづくり**

2030年マイルストーンの設定

国内外の拠点を水量、水質の両面でリスク評価して、高リスクの拠点の改善を進めています。また、低リスクの拠点においても資源の有効活用のために、水の取水量の削減に取り組んでいます。

2021年度からは、漏れの改善やリサイクル推進などの削減に取り組んでいます。

物流段階の梱包材の低減 **回収・再生**

通い箱[※]の洗浄回数を増やし清潔に保つことで、汚れを防ぐために使用する梱包材を低減しています。さらに、製品の品質維持と梱包材の使用量低減とのバランスを考慮しながら、通い箱への蓋付けなどによる梱包材の低減も進めています。

※製品運搬用の箱

また、排水処理施設を計画的に更新し、よりきれいな排水にするように取り組んでいます。

水リスク低減の2030年マイルストーン [グローバル]

	項目	2030年度目標
リスクが高いエリア	水質	4拠点で対策完了
	取水量	7拠点で対策完了
リスクが低いエリア	売上高当り取水量	2019年度比11%減

自然共生社会の構築

基本的な考え方

ネイチャーポジティブの考えに基づき、生物多様性の保全に向けた自然共生活動の構築への取り組みとして、地域社会との共生をマテリアリティ(重要課題)の1つとし

生物多様性に関する「リスク」と「機会」

生物多様性に関する「リスク」と「機会」を特定して活動を推進しています。

影響する項目	リスク	機会	対応
自然資本の減少	<ul style="list-style-type: none"> 原材料の調達難や価格高騰による収益悪化と生産支障 水質悪化による製品品質の悪化 	<ul style="list-style-type: none"> 自然保護活動を通じた人材や原材料の確保による事業継続 里山整備、河川保全を通じた良質な水資源確保による持続可能な生産および企業価値の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 軽量化の製品開発の推進 原材料のリサイクル技術開発 植物由来のバイオ材やリサイクル材の活用拡大



従業員と家族による里山整備

て掲げ、里山整備、ビオトープの設置、干潟などの保全活動を推進しています。

中長期目標の設定

2050年までに工場面積に相当する59ヘクタールの緑を復元するという目標「緑のノーネットロス」を設定して活動を推進しています。具体的には、「生命の源泉である水で活動をつなぐ」をスローガンに、山、川、海のエリアで取り組みを推進しています。

実現に向けたシナリオ

